様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2013
課題番号：２１５２００４４

研究課題名（和文）西洋哲学における宋明理学の受容と展開

研究課題名（英文）Acceptance and development of the Neo-Confucianism of the Song and Ming dynasties in European philosophy

研究代表者
井川　義次（IGAWA, Yoshitsugu）

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：５０３１５４５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,800,000円、（間接経費）　540,000円

研究成果の概要（和文）：　中国布教に関わるイエズス会宣教師らは有効な布教に資するため深く中国哲学を研究した。とりわけルイ十四世を後ろ盾とするフィリップ・クプレらによる『中国の哲学者孔子』や、スアレス等人文学に精通したフランソワ・ノエルによる『中華帝国の六古典』は、「四書」をラテン語に翻訳したが、その内容は西洋の世界観・価値観を転倒しかねない情報をはらむものであった。これらは張居正（ないしは朱熹）注釈をふまえたものであって、その翻訳は必然的に抗議の宋明理学の影響を直接・間接的に受けるものであった。本研究はこれら中国哲学紹介書のライプニッツ、クリスチャン・ヴォルフ、ビルフィンガーらに対する影響の如何について考察した。

研究成果の概要（英文）：　The Jesuits propagated Christianity in China effectively from the 16th century. Confucius Sinarum Philosophus (1687) by Phillippe Couplet and Sinensis Imperii Libri Classici Sex (1711) by Francois Noel, were the famous translations of the Four Books with many explanations of Zhang Juzheng. Typical enlightenment philosophers, Leibniz, Wolff and Bilfinger read through these translations, and praised Chinese philosophy. To investigate the fact, this report searched the influence of the Chinese information on these philosophers.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、中国哲学

キーワード：宋明理学　朱子　張居正　『中国の哲学者孔子』　『中華帝国の六古典』　ライプニッツ　クリスチャン・ヴォルフ　ベルンハルト・ビルフィンガー

１．研究開始当初の背景

（1）イエズス会宣教師と、その中国研究に関する研究論文は、デンマークの Knud Lundbaek やアメリカの David E. Mungello、中国の張西平の著作群があり、日本語文献としては第二次世界大戦以前の五来欣造『儒教の独逸政治思想に及ぼせる影響』、後藤末雄『中国思想のフランス西漸１・２』、佐伯好郎『支那基督教の研究』等があったが、それら諸研究をふまえつつもそれらを凌駕する実証研究としては戦後21世紀前後に公にされた堀池信夫『中国哲学とヨーロッパの哲学者　上・下』があった。

これらを受けて井川義次は、2009年に文献に密着した実証研究の方法論に基づき『宋学の西遷―近代啓蒙への道―』を著している。

本研究は先人の業績に分け入りつつも、真にこれからの世界にとって有益なはずの東西思想の交流の実態を知るためには、中国哲学を好意的に評価、あるいは尊崇したヨーロッパ理性の時代～啓蒙期の哲学者たちの文献と、その情報源となったイエズス会宣教師による中国哲学研究論文や経書の翻訳、そしてその本源たる四書五経等、中国側の経典原文並びに、朱子章句集注のみならず、明代の公的教科書『四書大全』『性理大全』はもとより、明代版暦期の大政治家、張居正の『四書直解』等、汗牛充棟とも言える諸注釈群とを文献実証学的に照らし合わせるという基本作業が絶対的に必要である。

しかしこれまでのところ、多くの場合、欧米における研究においては中国儒教経典の漢文注釈にまで遡っての研究は僅少であった。

また他方、東洋側は西洋の二次文献か、英・独・仏語までの考察が主であって、ラテン語やイベリアの文献にまで立ち入っての研究は僅少であった。

しかしながら欧州の学問語であるラテン語と、注釈を含めた漢文文献との相互対照無くしては、東西の思想交渉の精細な考察は絶対不可能であり、本研究ではその点を打開することを目標とした。

２．研究の目的

（1）世界は一つであり、その間の文化・文明は平等の価値を持ち、相互理解が必要であることが声高に叫ばれるが、多くの場合西欧的世界観・価値観の遠近による把え返しがほとんどで、アジアから西欧に向けての哲学・思想の流入や受容・影響に関する実証研究はじつに僅かなものであった。本研究では、先行研究によって明らかとなったヨーロッパの哲学者（ライプニッツ・ヴォルフ・ビルフィンガー、またヘルダー、ヘーゲル等）自身による、自身の哲学と中国哲学とが近似する、あるいは中国哲学から影響を受けたとの言説が、本当に文献的にも実証的に裏付けられるのものであるかどうかを探ることを目標とした。

ことに来華イエズス会士、17世紀の本格的中国哲学紹介文献たるゴットリープ・シュピツェル『中国文芸論』に記載される『易経』に見られる整合的・合理的な世界システムの情報や、計算に関わるモナド情報や、中国的充足理由律とも言える理一分殊を説く『中庸』、格物致知を説く『大学』のルッジェリ、マルティニ等による最古の『大学』抄訳と、イントルチェッタ訳の最古の『中庸』訳文、またルイ 14 世をパトロンとするフィリップ・クプレらによる『中国の哲学者孔子』の『大学』『中庸』『論語』訳文と、中国哲学概説、ならびにスアレス研究の第一人者で、ローマ教皇から忌憚なき、有りの儘の中国情報紹介と古典翻訳を命ぜられたフランソワ・ノエルによるヨーロッパ初の『四書』全訳ならびに『小学』『孝経』の翻訳を付する『中華帝国の六古典』の訳文、さらにはこれらを情報源として、中国哲学論を展開したライプニッツとその学問上の弟子クリスチャン・ヴォルフ、並びにその学統を継承し、前批判期のカントに物理学的力の拮抗ならびに均衡の情報を提供した中国哲学研究科ベルンハルト・ビルフィンガー、その他ヘルダーからヘーゲルにまで至る諸学者の中国哲学論との関係を、究極的には儒教文献と、朱子、張居正等、いわゆる宋明理学者による注釈を通じて実証的に解明することを目的とした。

３．研究の方法

（1）以下の文献における、西洋側の中国哲学情報を翻訳・読解し解釈・受容の実態を解明する。

その際、内容上の外的・形式的類似からの比較ないし当て推量や、特定の出来合いの西欧優位の思考枠組みからの解釈や、価値の位置づけといった不毛の論議を極力避け、具体的・実際的にその文献名を指名、言及したものや、前後の文脈から確定できる、儒教古典並びにそれらに対する宋明から清代に至るまでの儒者による注釈などの中国側文献に密着・相即して対応の如何を確定することを実行した。

なおそれら文献の多くは本邦未訳であることを付言する。

①西欧側文献

シュピツェル『中国文芸論』

ルッジェリ訳『大学』

マルティニ訳『大学』（『中国史』所収）

イントルチェッタ訳『中庸』

クプレ等編『中国の哲学者孔子』における儒仏道三教情報ならびに中国史情報、また『四書』の訳文としての『大学』『中庸』『論語』訳文

ノエル『中華帝国の六古典』における『大学』

『中庸』『論語』『孟子』『孝経』『小学』訳文
同『中国哲学三論』中における中国の霊魂論に関する論考
ライプニッツ『中国自然神学論』他
クリスチャン・ヴォルフ『普遍的実践哲学』
同『中国の実践哲学に関する講演』
ベルンハルト・ビルフィンガー『運動物体に内在する力とそれらの測定に関する力学的証明』
同『古代中国道徳政治学』

②中国側文献
朱熹『朱子語類』
同『四書集注』
同『朱子語類』
『性理大全』
『四書大全』
『五経大全』
宋～清代儒学者らによる「四書」に関する諸注
張居正『四書直解』
同『易経直解』
同『書経直解』

これら原文に関して全訳ないし部分訳を行い分析的読解を進め、ヨーロッパ側文献とその情報源、ならびに源泉資料としての四書五経とその諸注等相互間の関連を、文献から決して外れることなく実証的に解明することとした。

４．研究成果
（1）ライプニッツが二十代で接し、のちに文通さえしていたシュピツェル『中国文芸論』所収の『易経』の陰陽の両儀・四象・八卦・六十四卦に至る世界の整合的・合理的展開に関わる二進法 binarium 情報や、中国の計算法にかかわるモナド monade 情報、また充足理由律の先蹤とも言える理一分殊を説く『中庸』情報、ならびに平天下・治国・成果・脩身・正心・誠意そして致知格物について論ずる『大学』の最初期のラテン語訳文について考察した。
　なおその際には、それらの情報源の一つが、マルティノ・マルティニの『中国史』であることを明らかにし、かつその『中国史』原文と中国側文献との比較対比ならびに考察を行った。

（2）ライプニッツやヘルダーが実際に接した文献であり、天から霊的存在者鬼神から人間、天地、山河、鉱物のみならず長江に生息する大亀・鼈・鰐にまでいたるあらゆる万物を通貫する理一性の整合的世界観を説くイントルチェッタ『中庸』のヨーロッパ最古のラテン語訳文を、朱熹の注と照らし合わせて分析した。
　またその際、フィリップ・クプレ等イエズス会宣教師の協力になる『中国の哲学者孔子』の訳文との照合作業も行い、イエズス会士の『中庸』訳文が、純粋朱子学的なものから、張居正のみならず各種宋明理学者の有神論的傾向の注釈に基づいて理解しようと方向転換していったという解釈史的後付けも行った。

（3）ノエル『中華帝国の六古典』の筆者自身による研究成果をふまえ、進んで中国の神論・霊論・哲学を縦横に論ずる『中国哲学三論』のうち、古典儒家経典と宋明理学の鬼神論との対比を通じて、中国人の世界観を歴史的、かつ客観的に裏づけを取った上で実証的に論じていたことの実情を把握できた。

（4）クリスチャン・ヴォルフによるきわめて文献実証的な方法論にもとづいた中国研究書たる『中国の実践哲学に関する講演』についてはすでに拙著『宋学の西遷―近代啓蒙への道―』の考究があるが、本研究においては中国の世界観理解・受容が、処女論文たる『普遍的実践哲学』にまで遡りうることを、論の展開仕方の順序、説明の構造の整合性、また語彙間の対応の方面から探り、彼の中国哲学理解の大本がそこにあったこと、またひいては同時代にすでに存在していた『中国の哲学者孔子』や、その英・仏訳や、当のヴォルフ自身が後に編集の構成員となるアクタ・エルディトールムの書評から影響を受けた可能性のあることを指摘した。

（5）カントが前批判期に、自己の方法論と類似していると告白したベルンハルト・ビルフィンガー『運動物体に内在する力とそれらの測定に関する力学的証明』の全訳を目ざし、部分訳を推進した。そして力の均衡・拮抗や中間項に関する論議がビルフィンガーの当代ヨーロッパにおいて最も進んだ中国哲学の本格的な研究書『古代中国道徳政治学』中の『中庸』や『大学』等の世界観にまでさかのぼれないか検討すべく初歩的解明を行った。

（6）これらの成果を公表すべく、各種専門書や雑誌等における論文発表、さらには中国における国際学会・講演等における口頭発表において示した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 9 件）
①井川義次「拉丁語訳「四書」与欧洲対中国哲学的接納―囲繞莱布尼茨与沃爾夫―」（『儒家思想与理想之治　論文集（下）』国際儒学論壇・2013）査読無、215-233 頁、2013 年 12 月。単著。
②井川義次「儒学古典信息与其在欧洲的回

響―欧洲啓蒙主義者対中国哲学的接受―」（『宮廷典籍与東亜文化交流』故宮博物院故宮学研究所）査読無、493-502 頁、2013 年 7 月。単著。
③井川義次「西洋近代哲学の形成と中国哲学―ライプニッツとヴォルフを軸として―」（石川文康・井川義次編『知は東方から―西洋近代哲学とアジア―』『知のユーラシア』シリーズ第 1 巻、明治書院）、査読無、67-70 頁、2013 年 5 月。単著。
④井川義次「西洋における孔子文化の影響」（守屋正彦編『東アジアにおける儒教美術の展開についての国際会議』（『礼拝空間における儒教美術の総合的研究』平成 23 年基盤研究(B)課題番号：21320027 研究報告書）、査読無、37-66 頁、2013 年 3 月。単著。
⑤井川義次「朱子学の西伝」（神山伸弘編『ヘーゲル世界史哲学にオリエント世界像を結ばせた文化接触資料とその世界像の反歴史性』（平成 23 年度基盤研究（B）（一般）課題番号：21320008 研究報告書）、査読無、219-263 頁、2012 年 3 月。単著。
⑥井川義次「青年カントと中国哲学―ビルフィンガーの中国哲学観を背景として―」（『哲学・思想論集』筑波大学人文社会科学研究科哲学・思想専攻）査読無、1-14 頁、2012 年 3 月。単著。
⑦井川義次「青年康德与中国哲学―以比爾芬格(Bilfinger)的中国哲学観為背景―」(『西学東漸与東亜近代知識的形成与交流』第四届出版史国際学術研討会論文集)、査読無、607-614 頁。2011 年 11 月。単著。
⑧井川義次「プロスペロ・イントルチェッタ『中国の政治・道徳学』―『中庸』における朱子性理説情報のライプニッツへの流入―」（『ホモコントリビューエンス研究』筑波大学大学院人文社会科学研究科）、査読無、231-242 頁、2011 年 7 月。単著。
⑨井川義次「鬼神とアウラ」（『中国文化』第 69 号、中国文化学会）、査読有、53-65 頁、2011 年 6 月。単著。

〔学会発表〕（計 3 件）
①井川義次「拉丁語訳「四書」与欧洲対中国哲学的接納―囲繞莱布尼茨与沃爾夫―」国際儒学論壇、2013 年 12 月 1 日、北京人民大学（中国）。
②井川義次「儒学古典信息与其在欧洲的回響―欧洲啓蒙主義者対中国哲学的接受―」、宮廷典籍与東亜文化交流、2013 年 7 月 13 日、故宮博物院故宮学研究所（中国）。
③井川義次「青年康德与中国哲学―以比爾芬格(Bilfinger)的中国哲学観為背景―」、西学東漸与東亜近代知識的形成与交流、第四届出版史国際学術研討会、2011 年 26 日、北京外国語大学（中国）。

６．研究組織
(1)研究代表者
井川　義次（IGAWA, Yoshitsugu）
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号：50315454